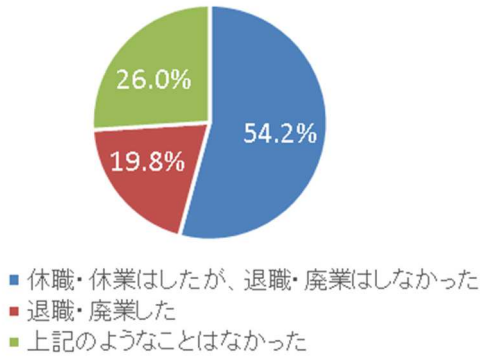
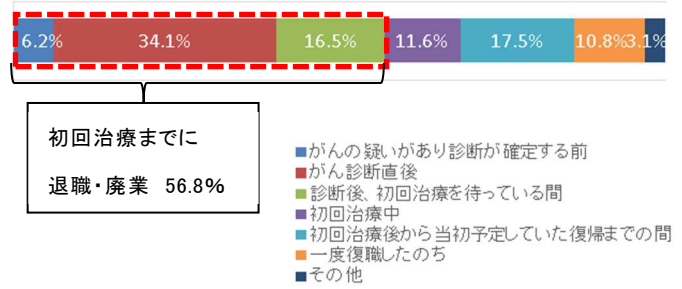


図表 2-1-28 がん診断後の就労への影響



図表 2-1-29 「退職・廃業した」と回答した患者の分布



出典：厚生労働省委託事業「患者体験調査」(平成 30(2018)年度)

④ 妊孕性温存、アピアランスケア

がん患者や経験者が、がんと共に生きていくためには、がん患者や経験者のQOL向上や社会参加を後押しする取組が必要です。

本県では平成 30(2018)年度から国に先駆けて妊孕性温存療法の医療費補助を開始し、これまで132件の助成をしています(令和5(2023)年3月末時点)。

令和4(2022)年度から開始したウィッグ購入費の助成は、初年度945件(令和5(2023)年3月末時点)の実績があり、アピアランスケアの専門家による医療従事者等向けのセミナーも開催しています。

【主な指標の達成状況】

計画の目標達成のために指標を設定して取り組んできましたが、がん検診受診率をはじめとして、未達成の指標が多い状況です。現状をしっかりと分析し、施策を展開する必要があります。

分野	指標	策定時数値	直近値	目標値	参考値(全国)	
がん予防	喫煙率	男性	23.5%(H29)	20.7%(R5)	18.0%以下 5.0%以下	27.1%(R1)
		女性	5.8%(H29)	6.1%(R5)		7.6%(R1)
がん検診	がん検診受診率	胃 40.5% 肺 42.1% 大腸 38.8% 子宮頸 40.2% 乳 40.3% (H28)	胃 50.4% 肺 47.7% 大腸 44.0% 子宮頸 42.5% 乳 42.6% (R4)	全て 50%以上	胃 48.4% 肺 49.7% 大腸 45.9% 子宮頸 43.6% 乳 47.4% (R4)	
	市町検診の精密検査受診率	胃 78.9% 肺 72.0% 大腸 70.4% 子宮頸 72.3% 乳 83.1% (H27)	胃 86.7% 肺 76.2% 大腸 69.7% 子宮頸 65.6% 乳 87.7% (R2)	全て 90%以上	胃 84.4% 肺 82.6% 大腸 70.2% 子宮頸 76.6% 乳 89.8% (R2)	
がん医療	拠点病院等の放射線治療専門医等数(HIPRAC含む)	24人 (H28)	24人 (R5)	10人増	—	
	拠点病院へのがん薬物療法専門医等配置	10/16 拠点病院 (H28)	全拠点病院 (R5)	全拠点病院	—	
	拠点病院へのがん薬物療法認定薬剤師配置	13/16 拠点病院 (H28)	全拠点病院 (R5)	全拠点病院	—	
	拠点病院へのがん化学療法看護認定看護師配置	15/16 拠点病院 (H28)	全拠点病院 (R5)	全拠点病院	—	
	拠点病院への病理専門医等(常勤)配置	13/16 拠点病院 (H28)	全拠点病院 (R5)	全拠点病院	—	
緩和ケア	苦痛のスクリーニング増の拠点病院数	—	6/13 拠点病院 (R4)	全拠点病院	—	

分野	指標	策定時数値	直近値	目標値	参考値（全国）
緩和ケア	在宅緩和ケアの提供体制の整備	在宅緩和ケア推進モデル事業の実施(H29)	介護職のための在宅緩和ケアセミナーを開催し、介護福祉関係者の研修を実施(R5)	在宅緩和ケアの拠点づくり	—
	がん患者に対応できる地域包括支援センター数	—	78/122施設(R5)	全地域包括支援センター	—
情報提供 相談支援	「広島がんネット」のアクセス件数	88,540件(H28)	175,488件(R4)	前年より増	—
	ピア・サポートに対応できる拠点病院数	1/16拠点病院(H29)	12/13拠点病院(R4)	全拠点病院	—
	拠点病院の両立支援コーディネーター研修受講者	6人(H29)	45人(R4)	32人	—
	「Teamがん対策ひろしま」登録企業数	51社(H29)	188社(R5)	100社(R1)	—
	学校保健計画に「がん教育」を位置付けている公立学校数	—	86.4%(R4)	全公立学校	—

※ □は目標達成、■は目標未達成

## 課 題

### 1 がん予防・検診

#### (1) がん予防

がんを予防するためには、喫煙・受動喫煙の防止、食生活・適正飲酒・運動等といった生活習慣の改善や、ウイルス感染が原因となるがんについては感染予防の徹底が求められています。

がんの罹患リスクの高い喫煙・受動喫煙については、施設における法令を周知徹底し、県民一人ひとりの禁煙や生活習慣の改善に向けた行動を支援する必要があります。また、HPVワクチンについては、キャッチアップ接種を含めた定期接種の対象者、その保護者に対して、ワクチンの有効性や安心して接種できる医療体制が構築されていることを周知する必要があります。

#### (2) がん検診

がんの早期発見のためには、質の高いがん検診の実施が重要です。がん検診受診率はコロナ禍の影響による落ち込みから回復しつつありますが、依然として、胃がんを除き40%台と伸び悩んでおり、対策が一人ひとりの行動変容につながっていません。

このため、対策を講じながら受診動向等を分析し、受診しやすい検診体制の構築や職域等への受診勧奨について、効果的な取組を実践し、受診者の利便性を考慮した受診環境の整備について取り組む必要があります。

また、がん検診により確実にがんを発見するには、がん検診の質（精度管理）向上が不可欠ですが、精密検査受診率は胃がん以外全国平均を下回っています。精密検査未把握率についても、市町と医療機関との連携が不十分であるため、胃がん以外全国平均よりも高くなっています。

そのため、未受診者に対する受診勧奨や、精密検査未把握率の低減を目指すとともに、関係者間の迅速な情報共有や精度管理の支援・分析のためのIT・AIの活用、検査画像の読影医の養成などを積極的に進め、がん検診の効果が十分に発揮され、早期かつ的確な治療につなげる仕組みづくりが課題となっています。

(2) 分野別の目標

施策の分野別に指標を設定し、それぞれの指標の達成すべき水準（目標）を明確にして、達成に向けた取組の進捗を管理していきます。

区分	指標	現状値	目標値	指標の出典	
P	喫煙率	男性	[R5] 20.7%	[R11] 17.0%以下	広島県民健康意識調査
		女性	[R5] 6.1%	[R11] 5.0%以下	
P	HPV ワクチン実施率	2 回目の実施率※	[R4] 37.5% (3回目)	[R10] 70%以上	地域保健・健康増進事業報告
P	がん検診受診率	[R4] 胃 50.4% 肺 47.7% 大腸 44.0% 子宮頸 42.5% 乳 42.6%	[R10] 60%以上	国民生活基礎調査	
P	市町検診の精密検査受診率	[R2] 胃 86.7% 肺 76.2% 大腸 69.7% 子宮頸 65.6% 乳 87.7%	[R11] 全て 90%以上	地域保健・健康増進事業報告	
S	拠点病院等への放射線治療専門医等（常勤・専従）配置（HIPRAC 含む）	[R5] 13/14 拠点病院等	[R11] 全拠点病院等	拠点病院現況報告	
	拠点病院へのがん薬物療法専門医等（常勤・専従）配置	[R5] 全拠点病院	[R11] 全拠点病院	拠点病院現況報告	
	拠点病院への病理専門医等（常勤・専従）配置	[R5] 全拠点病院	[R11] 全拠点病院	拠点病院現況報告	
P	緩和ケア（PEACE）研修会修了者数 （医師、看護師、薬剤師等）	[R4] 236 人 （累計 4,194 人）	[R11] 前年より増	県健康福祉局調べ	
	緩和ケア認定看護師数 （緩和ケア・がん性疼痛看護認定看護師）	[R4] 94 人	[R11] 10 人増	日本看護協会「データで見る認定看護師」	
S	がん患者に対応できる地域包括支援センター数	[R5] 78/122 施設	[R11] 全地域包括支援センター	県健康福祉局調べ	
P	「広島がんネット」のアクセス件数	[R4] 175,488 件	[R11] 現状より増	県健康福祉局調べ	
	「Teamがん対策ひろしま」登録企業数	[R5] 188 社	[R11] 300 社	県健康福祉局調べ	
S	学校保健計画に「がん教育」を位置付けている公立学校数	[R4] 86.4%	[R11] 全公立学校	県教育委員会調べ	

S：ストラクチャー指標、P：プロセス指標、O：アウトカム指標

※ 接種者数を対象人口（標準的な接種年齢期間の総人口）で除して算出した値

接種者数：12歳となる日の属する年度の初日から16歳となる日の属する年度の末日までの間にある女子で接種した者  
標準的な年齢接種期間：13歳となる日の属する年度の初日から当該年度の末日までの間のこと

3回目の実施率については、令和5年度より、HPV9価ワクチンの定期接種が開始となっており、満15歳までに1回目の接種を行うと、計2回の接種で完了となり、今後は同ワクチンの接種が見込まれることから目標値を設定しない。

3 実現に向けた取組

全体目標を達成し、目指す姿を実現するため、令和6（2024）年度から令和11（2029）年度までの6年間において、「がん予防・がん検診」「がん医療」「がんとの共生」を施策の3本柱と位置付け、総合的に取り組んでいきます。